



鍛錬（たんれん）について

10月28日29日の二日間、子どもたちは桜峰小学校の児童と合同で、熊本に修学旅行に行きました。熊本では、熊本城や田原坂に行き体験することで、熊本城のことや、西南戦争の田原坂の激戦のことがよくわかったのではないかと思います。今日は、その熊本にゆかりのある人物、晩年を熊本で過ごした宮本武蔵について書きます。

今から約380年前の江戸時代初めに、宮本武蔵（みやもとむさし）という剣豪【剣の達人】がいました。この人は、二天一流（二刀流）を始めた人で、十三歳から二十九歳まで、六十あまりの剣術の試合で一度も負けたことがない無敗を誇った人です。中でも佐々木小次郎（ささきこじろう）との巖流島（がんにゅうじま）での剣術対決は有名な話として語り継がれています。

この宮本武蔵が晩年書き記した「五輪書」（ごりんしょ）の中に、「鍛錬」について次のように書かれています。

千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって錬とす「鍛」は基礎が定着するということ、「錬」は一つの道として揺るぎなく完成すること。

「鍛」には千日【約3年】を要し、「錬」には万日【約30年】を要する。

このことは、継続的な努力・物事に一生懸命に取り得組むこと（精進）の大切さについて説いた言葉であるとされています。

このことを、現代風に「千日」を「千回」「万日」を「万回」と置き換えますと、「千回をもって鍛【鍛える】（きたえる）」とし、「万回をもって錬【錬る】（ねる）」となります。

つまりどういうことかといいますと、基礎的なものを毎日反復して学習して身につけたことが、これから生きていく場面の中で、本当の自分のものとして身につくということです。



宮本武蔵
(1584 ~ 1645)
江戸時代初めの剣豪

今現在、黒神小学校の児童たちは、いろいろなことを学校で学習しています。これから生活していく中で、現在学習したことを活用する場面が必ずあります。



この時期は、心も体も一番の伸び盛りです。物事を吸収するスピードは速く、多くのことを吸収することができます。この時期に、一生懸命学習したことは、大人になってからも忘れにくいものです。

頭がやわらかい今のうちに、いろいろな知識を身につけておきましょう。

行事予定 【今後の予定は諸事情により変更になることもあります】

- 11月9日（月）～12月4日（金）
- 11月10日（火）クラブ活動
- 11月14日（土）土曜授業・防災訓練
- 11月13日（火）クラブ活動
- 11月21日（土）黒神女性学級
- 11月22日（日）黒神地域グランドゴルフ大会
- 11月23日（月）勤労感謝の日
- 11月26日（木）桜峰小学校交流学习
桜峰小学校で給食
- 11月27日（金）第2回学校評議員会

- 11月27日（金）桜島地区学校保健研究協議会（桜峰小）
- ※11月5日（木）に鹿児島市の陸上記録会が実施されました。5年の山元杏純さんと6年の田中璃杏さんが、それぞれ100メートル走に出場しました。二人とも、自分の持てる力を精一杯出し切って走っている姿が印象的でした。大会後は市内の史跡巡りをして帰ってきました。